

2022 年度活動計画

<総務>

- ・ 毎月 1 回幹事会を開催し、議事録を会員に配信する。
- ・ 幹事会の協力を得て、ニューズレターの年 8 回程度の発行を目指す。「自論公論」「イベントの案内・報告」「旅の千夜一夜物語」などの定例の記事の他、会員相互の情報交換や近況報告を兼ねて、より多くの会員に投稿を呼びかける。
- ・ SRID サロンを支援するとともに、コロナウィルスの終息を前提に、新趣向の懇親イベントなどを企画して、会員間の親睦を図る。
- ・ SRID パンフレットの内容を更新するために検討委員会を組織する。(山下)

<広報>

- ・ 定期的に HP を更新し、年に 2 回 SRID ジャーナルを発行する。
- ・ Facebook など各種メディアにより SRID 活動の全体的プロモーションを行う。
- ・ 必要に応じてパンフレット・案内書の印刷、幹事の名刺作成などを行う。(山岡)

<懇談会>

- ・ SRID 非会員も参加できる公開イベント。国際開発のベテランのみならず、国際開発に興味のある学生や、すでに国際開発分野で働いていてさらなるステップアップを目指す若い世代などの幅広い参加者を対象に、国際開発に関する時宜を得たテーマについてその分野のエキスパートに講演を頂く。そして、講演後に十分な質疑応答の時間を設けることで講演者も含めた全参加者が共に考える機会とする。
- ・ 懇談会のテーマと回数は登壇可能な講演者に合わせてフレキシブルに対応するが、国連関連と世界銀行などの国際開発金融機関関連を各 1 回、その他国際開発関連を 2 回、合計 4 回以上の開催を目指す。
- ・ コロナ禍の為オンライン開催を続けるので、ネットワーク懇親会は開催できないが、懇談会を通じて、キャリア開発事業や SRID ジャーナルを含めた SRID の活動に対する非会員参加者の認知度を高め、キャリア開発塾カウンセリング申込者増や SRID ジャーナル読者登録者増、さらに SRID 新規会員増に繋げる。
- ・ 懇談会の成功は魅力ある登壇者探しがキーであり、会員の皆様には、登壇の自薦や登壇可能な知り合いの方の紹介をお願いしたい。(小林_文)

<フォーラム>

2021年度はZoom によるフォーラム開催を実施し、多くの会員の参加を得ることができた。今年度は状況が許せば対面での開催と合わせ、ハイブリッドの開催を検討する。開催の時期はコロナの状況にもよるが、11月か12月とする。テーマについてはアンケート等により会員の関心の高いものとし、多くの会員が参加できるよう設定していく。フォーラムがより一層、会員相互の親睦と意見交換の場となるよう工夫していきたい。(神田)

<SRID ジャーナル>

- ・ 2022年度は SRID ジャーナル担当の編集委員 7 名（浅沼信爾、高橋一生、中島千秋、福田幸正、藤村建夫、山岡和純、湊直信）で企画・編集を担当する。7 月に第 23 号、2023 年 1 月に第 24 号を発行する予定である。特集は編集委員会で決定するが、激動する世界における国際開発の最前線のトピックを選びたい。外部配信者は 570 名を越えており、順調な増加傾向を維持したい。
- ・ 2022年度はウクライナ問題の開発途上国への影響や、開発途上国の紛争の問題等、国際開発分野の重要課題を取り上げていきたい。執筆の主体はSRID会員であるが、必要に応じて非会員にも執筆を依頼したい。主な読者層は国際開発分野の実務者、研究者、及び大学院生などとする。できるだけSRID会員や読者のニーズを汲み上げた紙面づくりを目指したい。（湊）

<キャリア開発事業>

- ・ 2021年度に改編された事業内容に沿って、SRID キャリア開発事業の活動として以下の7項目の活動を実施する。とりわけ、プロフェッショナル研修コース、キャリア開発の特定な課題に関するオンラインフォーラム、個人カウンセリングに事業の重点を置いて、他の事業との連携を強化する。
 - ① プロフェッショナル能力向上研修
 - ② キャリア開発カウンセリング
 - ③ キャリア開発の特定な課題に関するオンラインフォーラム
 - ④ 出張講座
 - ⑤ ロスターの作成・運用
 - ⑥ 国際協力活動を行う学生団体を含めた他団体との連携
 - ⑦ キャリア開発に役立つ情報の提供（「SRID キャリア開発」発信等）
- ・ AFICS Japan（国連システム元国際公務員日本協会）と協力して、国連機関の開発援助計画の枠組に関する国際開発プロフェッショナルコースを 10月8日(土)、15日(土)の 2日間にわたり開催する。2021年度同様、研修を有料とし、事業を独立採算で行う。
- ・ 2021年度に開始した「開発分野で働く女性のためのフォーラム」等、キャリア開発の特定な課題に関するオンラインフォーラムを実施する。
- ・ 講師リストを拡充し、積極的に事業に協力できる会員を登録する。SRID ジャーナル、SRID ニュースレターへの寄稿、SRID 懇談会との連携を図る。
- ・ キャリア開発カウンセリングについては会員の需要にも積極的に応じる。その一環として、カウンセリングの専門家を招聘し、講師陣にカウンセリング手法の講習会を行う。
- ・ SRID 懇談会や SRID ジャーナルの他、ニュースレター「SRID キャリア開発」を国連フォーラム等の SNS へ投稿し、キャリア開発事業の対外的な認知度を一層高めるよう努力する。（鈴木）

<他団体との連携推進>

- ・ 2020 年度に連携イベントを開催したRITA-Congo のようなNGO を始め、他の学会や専門家のネットワーク、組織とも、共通の関心を持てる活動については情報共有を積極的に行い、連携を模索していきたい。(不破)

<サロン>

- ・ 2013 年度より年に 2, 3 回のペースで開催した「サロン・エカポール」では、国際開発のフロンティアで活躍されているプロフェッショナルを自宅に招き、夕食とワインを共にしながら、開発問題のホットイシューを中心に、最前線の新鮮な話題を提供してきたが、コロナ感染症の拡大により、対面での会合が困難になっている状況を考慮し、2020～2021 年度は、オンラインによる話題提供を実施した。
- ・ 2022 年度は、コロナ感染症が減少すれば、再度対面式のサロンも復活を考えたい。話題も写真、絵画、旅行、スポーツ、最新のトピックなど趣味と教養の分野に広げて、他の関連する若者との合同サロンも検討する。(藤村)